

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)本厚木駅前ビル新築工事	階数	地上13F
建設地	厚木市旭町一丁目63-1,63-2	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	276人
気候区分		年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年11月 予定	評価の実施日	2013年11月14日
敷地面積	701㎡	作成者	(株)東横インアキテ
建築面積	332㎡	確認日	2013年11月20日
延床面積	3,501㎡	確認者	(株)東横インアキテ



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8** ★★☆☆☆☆

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算 ★★☆☆☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです(kg-CO<sub>2</sub>/年・㎡)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

**LR のスコア = 2.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> ・施工性に配慮しシンプルな設計とした。 ・仕様・寸法を規格化し、材料・設備への無駄のない様配慮した。 ・スケルトン・インフィルとして仕様変更やメンテナンスの簡易化を図り、ライフサイクルコストの削減にも考慮した。	<b>その他</b> 0	
<b>Q1 室内環境</b> ・外壁はロックウール吹付とし断熱性を図る。 ・乾式間仕切壁内にグラスウールを使用し、天井裏まで達することにより遮音・吸音を図っている。 ・個別空調設備を設け、快適な室内環境を維持できるように配慮した。	<b>Q2 サービス性能</b> ・バリアフリー法の遵守、障害のある方、車いす使用者に対応した客室と共用スペースを設けている。 ・インフィルとし設備メンテナンス、やり替え工事がしやすいように配慮している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・圧迫感を感じさせないよう建物を道路境界より後退させ、奥行のある空間づくりに配慮した。
<b>LR1 エネルギー</b> 個別空調・給湯システムとし、照明にLEDを採用する等、使用エネルギー量の削減に配慮した。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> トイレの流し水に井戸水を利用している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 個別空調・給湯システムとすることで、無駄な消費エネルギーを削減し、高効率化を図り環境に配慮した。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される